

海城のプライド。

次世代のリーダーを世に送り出す使命を胸に



イングリッシュキャンプは中2希望者対象

海城中学高等学校
Kaijo Junior & Senior High School

学校募集要項詳細ページ ▶ page. 72

成熟した現代の日本社会、グローバル化が進む国際社会において、求められる人材とは？「国家・社会に有為な人材を育成する」という建学の精神の下、海城学園が出した答えは「新しい人間力」「新しい学力」を培うことで、激動する時代のリーダーとなる人材を世界に送り出すこと。



ドラマエデュケーションでは、修学旅行の一コマを劇に

相手は中学1、2年生とはいえ、帰国生枠で入学した海城生。ある期待を持って、尋ねた。「“グローバル”ってどういうことだと思う？」「世界には、いろいろな民族の人がいる。そういう人たちとも話し合えるような、文化を分かち合えるような、そういう考え方だと思います」(中2・田向健人君)。「今、国語の授業で話し合っているんですけど、グローバル化によって、アジアの国とかは西洋化が進んで、発展を図ることができる一方、その国独自の文化が失われてしまう可能性もあるので、プラスとマイナスの両面が考えられるのではないかと思います」(中1・河上洋紀君)。期待をはるかに上回る答えに舌を巻いた私に、グローバル教育部部長の春田裕之教諭はこう言った。「授業で取り上げたテーマについて、教科書とはまた別の視点の教材を与えることにしています。すべての教科で」。

人には多様な価値観があり、多様な生き方がある。それを理解した上で尊重し、協働することで新しい価値を創造する。同校では、これからの社会でリーダーとなるために必

要な「新しい人間力」と「新しい学力」を培うために体験型のプログラムも取り入れている。グループで取り組むプロジェクトアドベンチャーやドラマエデュケーションでは、他者を理解し、互いを尊重して信頼関係を構築する。異なる意見をまとめ、表現することで、他者とのコミュニケーションから生まれるシナジー効果を体感する。理科の授業では、実験、観察、巡検を重視。社会科総合学習では、自ら課題を設定しレポートを作成。論理的思考力や批判的思考力、問題解決能力を培う。放課後に行う特別講座では、リベラルアーツ教育を推進。日々変化する社会の中において、揺らぐことのない価値軸を身につける。「何事にもおもしろさとか興味を見い出せるようになったのは大きいです。学校に行くのが楽しいし、友だちと話すのも楽しいし、勉強するのも楽しい」と田向君。

また、帰国生入試を導入することで、世界の縮図を学校内に生み出した。「最初は“帰国生”と特別視されたこともありましたが、自ら進んで自分が住んでいた国のことを話すようにしたら、みんなしっかり聞いて



プロジェクトアドベンチャーは仲間と協力して課題に取り組む

くれて。そこは海城生のいいところだと思います。それに英語を教えてと友だちに頼まれたり、人の役に立つことができうれしい」と浅野悠君(中2)。帰国生が学校生活になじみやすいように、グローバル教育部が中心となり、個人面談の実施から英語力保持・増進のための特別授業や補習を行うなどサポート体制は万全。「海外でいい経験をしたと思っているので、他にもいろいろ経験することで、将来の選択肢が広がると思います。いい先生が多くて、勉強がおもしろくなってきました」と石川天真君(中1)。

3月には、グローバル教育部所属の専任英語教員として、ハーバード大学卒業後、東大大学院で研究し、海外大学でも教鞭を取ったベンジャミン・トバクマン先生が着任。生徒へのあいさつでこう述べた。「日本人の道徳観を發揮して、世界のどこにいても、自分のおかれている環境に貢献できる人になってほしい」。

生物部はトロクの森自然環境の保全活動に参加

